

滝までの

川 獣の道を走り抜け

あの子は歌手に

なるのでしようね



イラストレーション：MATSUICHI

佐賀県伊万里市に生まれる。有田工業高校デザイン科卒。
九州の北部僻地を中心にグラフィックデザインと
webデザインを生業にしながら、
ポップでナーヴィーで流行に左右されない、
矛盾を内包したイラストレーションを描き散らかしています。

<http://matgraph.net>
matsuichi99@gmail.com

短歌： 笹井宏之

1982年8月1日、佐賀県西松浦郡有田町泉山に生まれる。
2004年、短歌を作りはじめる。
2005年10月、連作「数えてゆけば会えます」で第四回歌葉新人賞を受賞。
2007年1月、未来短歌会に入会。加藤治郎に師事。同年度、未来賞受賞。
2008年1月25日、第一歌集『ひとさらい』(Book Park)刊行。
2009年1月24日、自宅にて永眠。(享年26)
2011年1月24日、『えいんとくらから 笹井宏之作品集』(PARCO出版)、
第一歌集『ひとさらい』、第二歌集『てんとろり』(ともに書肆侃侃房)、刊行。

ブログ「些細」 <http://sasai.blog27.fc2.com/>

【有田で詠んだ四季の歌を募集しています。詳しくは、ありたさんぽ (<http://www.arita.jp/>) をご覧下さい】

ヒアリタ
ビノ半

「有田の水」
〈特集〉



有田の 水

文 || 荒岡弥生
写真 || 片岡聰
古賀義孝



有田のやきもの、棚田、地酒、川魚料理など、食につながる伝統文化を根底で支え続けてきたもの——ひとつには「水」の存在があるだろう。では、この名水の源流はどこなのか。地元の人にとってはいまでもなく、奇岩・巨岩がそびえる自然の宝庫・黒髪連山である。山々からの恩恵はわれわれ人間だけでなく、ここに植生する一〇〇〇種類もの植物や一〇〇種を超える野鳥たちにも注がれ、こうして代々「命の水」をいただいてきた。

大地を肥やし、人々の生業に欠くことのできない生活を潤す「水」。うららかな春風を追いかけ、その源流をたどる旅に出かけた。

秘色の湖に眠るもののがたり

有田町の水がめのひとつ、桜の名所としても知られる「有田ダム」は、有田川水系の白川に建設された県営多目的ダムである。春には周囲を取り囲むように大小一〇〇〇本の桜が咲き誇り、秋には紅葉が映える。この美景をひと目見ようと、毎年多くの観光客が訪れている。

四季の美しさばかりではない。黒髪山系のふところに抱かれたこのダムは深い青磁の色をしており、その神秘的な光景を佐賀ゆかりの詩人・山本太郎氏は「秘色の湖（ひそくのうみ）」と名づけた。秘色とは青磁の美称、磁器の町のダムにとつてこれ以上の例えはないだろう。

あたりをゆっくり見渡すと、湖面の濃淡と山の緑の明暗が一枚の山水画のようで、

見るものの心を秘境の静寂さが包みこむ。

「このダムの湖底には、かつて『評定場』と呼ばれた広大な盆地状の広場が眠っているんですよ」。

黒髪山の自然に詳しい地元の吉島幹夫さんが、有田ダムにまつわる興味深いお話を聞かせて下さった。

「評定場といつても昭和のはじめ頃までは台地状の雑木林で、昭和十五年に開墾・整地して町民グラウンドを造ることになったんです。町民待望とあって、工事には子どもたちまでが勤労奉仕として汗を流しました」。

完成後は町民運動会や野球の練習場として使われ、戦時中は陸軍の射撃練習場にもなったといふ。

「評定場付近の奥白川谷と呼ばれる一帯は、夏は町民の避暑地に。川辺には会社や料亭が所有する東屋が点在していたのを覚えています。天気のいい日曜日の朝には清流沿いに家庭用の薪を取りに行く人の行列ができ、お昼頃には自分の背丈以上に薪を背負った人たちがにぎやかに降りてきました」。

この光景は家庭に石炭が普及する昭和三十年代まで続き、釉薬用の釉石を満載した馬車が降りてくる風景も日常だった。

のどかなまちにも時代の波は押し寄せ、昭和三十五年にダムが完成。古き良きまでの原風景は湖水の中へと消えていった。ふるさとのぬくもりも水の恵みも、今ではこの秘色の湖の深いふところに眠っている。

山と水のあるところに神ありて

巨岩や奇岩、怪石がそびえ、特異な景観に魅了される『竜門峠』は、主峰の青螺山と黒髪山の西斜面を水源としている。この湧水はうつそうとした原生林と巨岩をねつて流れ、果ては竜門ダムへと注がれる。

この「竜門の清水（りゅうもんのしみず）」は、昭和六十年に環境省の「日本名水百選」にも選ばれ、自然公園内を散策すれば、この天然水を飲む事もできる。澄んだ空気といつしょに味わうと、もうそれだけで身体が生き返ったような気がしてくる。

この山を愛し、自然保護活動を四十年以上にわたって続けていらっしゃる徳永明良さんと山歩きしながら、竜門の魅力を伺った。

「奇岩が多く神々しい景観が繰り広げられていることから、黒髪山周辺は古くから靈場として知られ、山岳信仰が栄えてきた場所です。鎌倉期は修験道場であつたことから坊跡も多く、当時を偲ぶ洞窟群もたくさんあります。昭和三十年代くらいまでは、修験者が滝行をしている姿やホラガイの音なども耳にしていました」。

登山路へと進んで行くと、屏風岩直下に『竜門洞』と呼ばれる畳一〇〇枚という広さの大洞窟があり、ここは大蛇退治伝説ゆかりの地。さらに奥には大人数人がやつと入れる程度の小さな洞窟があり、地元では「悪いことをしたもんは一度と出でられない」とまことしやかに囁かれているそうだ。

スピリチュアルな空気が色濃くなるのを感じながら先に進むと、不動明王の石仏と銀龍の滝が顯れた。そのそばには修験者たちが雨露をしのぐ簡素な小屋があり、中を覗くとついさきほどまでいたかのような生々しい空気にぞくりときた。



清流のせせらぎにハツと我に返り、岩陰に隠れる魚を見つけた。

「そうこう、竜門の水は鯉をさらすのにはもってこいなんですよ。陶石に含まれる明礬成分が水に溶け込んでるんでしょ、鯉の脂気がさらっと落ちるんですよ。有田で川魚料理を堪能できるのは、この竜門の水のおかげですね」。

徳永さんはそう言つて、野鳥たちもこの澄んだ水でのどをうるおし、水浴の場を確保しているのだと話して下さった。一方で、えさがあり、水があり、安心して休める場所があるこの黒髪山ですら、野鳥の数が減ってきていると危惧されている。

火山活動によつて陥没と隆起を繰り返しながら形成された黒髪山の山や岩峰。偉大なる自然と対峙した時、人間はそこに神を見る。文明がどんなに進んでも人の心は太古のまま、神を畏れ、自然を崇めるのだろう。

黒髪の山と水をめぐる旅で感じたのは、そこに宿る人々の思いと自然の包容力。それが融合した時、何かを、だれかのために祈る行為が生まれるのではないだろうか。静かに無心に頭を垂れる旅人を、山は黙つて迎えてくれる。



豊かな山の恵みは町中の湧水にも現れ、泉山地区の『白磁の水』は飲み水として長いこと愛用されている。酒造りの季節になると、酒造会社もこの水を求めて一日何回もタンクで水を汲みにくるという。

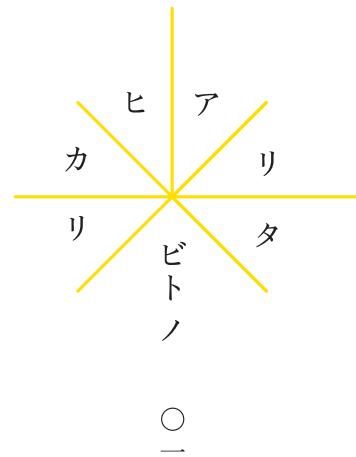


野上建紀

Takeemori Nogami

有田町教育委員会文化財課で考古学の研究調査を行なつておられる野上建紀さん。考古学者として県内の遺跡や窯跡の発掘調査をはじめ、有田焼の海外輸出の実態を知るために、東南アジアや中米など海外での出土陶磁器の調査にも取り組まっている。ご出身は北九州市。平成元年に同町役場入庁以来、アリタ人となつて二十五年。

文・荒岡弥生
写真・片岡聰



野上さんの今までの足跡を知りた
く、考古学との出会いを聞かせていた
だいた。

「物心ついた頃から地図を見るのが好
きで、小学校の中～高学年くらいから
歴史に興味を持つようになりました。
中学生になるとその関心が城や石垣に
移って、中三の時に太宰府で見た古代
の山城に衝撃を受けたことを、今でも
覚えてますね」。

多感な少年時代に遭遇した、壮大な
歴史とその時代を生き抜いた人々の生
なる証し。居ても立ってもいられない
くらいの興奮と想像力に突き動かさ
れ、少年は将来、考古学者になること
を夢見た。やがてそれは現実のものと
なり、あの時の感動が再びよみがえっ
てきた。

有田との縁を感じて

「大学時代に恩師と発掘調査で波佐見
に来たのが、有田との縁の始まりにな
りました」。

非常に細い面相筆で記載されていた。
すべての遺物にはば手書きで行なわれ
るこの作業だけでも、實に骨の折れる
作業だ。

「発掘作業も体力仕事で大変ですが、
採集後は出土場所等の記録をはじめ、
水洗や実測、復元などさまざまな手順
があるんですよ。これまでいくつかの
大学の学生が発掘調査に関わってくれ
ましたが、有田の体験を通して立派な
考古学者になった者もいれば、こんな
に大変なこと続けられないって考古学
を諦めた者もいますよ」。

野上さんはそう言つて笑いながら、
「これらを佐賀県の文化財として後世
に残していくのがわたしの仕事なんであ
す」と誇らしい笑顔で語られた。

有田の歴史をつなぐ

「数年前に九州国立博物館で開催され
た『パリに咲く古伊万里の華』展を見
た帰り、有田に戻ってきた時は感慨深

りますね。その時の恩師の薦めもあつ
て、このまちで考古学の研究を続ける
決心をしました。地元にたくさんの窯
元さんがいらして、その方々に専門的
な製法のことなどを尋ねることができます
のは、有田焼の歴史を研究する上で
ありがたい環境です」。

有田では道端や川底によく転がつて
いる陶器のかけら。地元の人にとって
は石ころみたいな存在だが、それら陶
片には作り手の意図やその時代に育ま
れていた社会の伝統、地域との関係な
ど様々な情報が込められている。

「ちょっと見ます?」と言って案内し
て下さったのが、有田町出土文化財管
理センターの二階。
ひんやりとした空氣に包まれた収蔵庫
にはおびただしい数のコンテナが積み
上げられ、発掘場所ごとに整理、管理
されていた。手に取って見せて下さっ
た陶片は、天狗谷窯跡で発掘された薄
さ数ミリほどの磁器。裏面の縁には、
出土先や遺物の整理番号などが穂先の

いものがありましたね。こんな小さな
町から当時のヨーロッパの人々を魅了
させる最先端の焼物が生れていたん
だなって、陶工や商人たちに思いを馳
せました」。

日本磁器発祥の地として焼物文化が
生まれ、二〇一六年に有田焼は創業
四〇〇年を迎える。この節目を記念す
る中で、「でも、この四〇〇年を長い
とも思わないんですよ。まだまだ過去
をふり返ってたたずむ年ではないです
よ」と野上さん。その言葉はまさに考
古学者らしい時のとらえ方で、未来へ
の視野が大きく開かれる思いがした。
「苦しい時代ですが、幾度もの不況を
乗り越えてきた過去を陶片は語つて
います。四〇〇歳の有田焼、まだまだ
若い」。

有田の町に新風を吹かせる言葉の
数々に、未来に力が湧いてきた。

私の一点

第二回

棕露地 淳市

文 | 筒井 ガンコ堂
撮影 | 片岡聰



辰砂花菖蒲文大壺
(高さ約40cm)

いま有田焼卸団地に店を構え

る棕露地商店は大正九（一九二〇）年の創業で、以前は有田の中心街、現在「有田館」となっている場所等で商売を営んでいた。有名な旅館、デパート、大企業の保養施設などが主な顧客で、高級な食器などを納入していた。しかし、バブル経済の崩壊や個人消費の減少などで高級品である有田焼全体の売上げは落ち込み、低迷が続く。棕露地商店も例外ではなかった。

そんな中、三代目を継いだ棕露地淳市さん（56）は、十年ほど前から「古物」と骨董」を前面に出す商いを推し進めてきた。「古物」の本当に良い品であれば、花瓶や額皿の1品ものは少々高

価でも確実に売れる。

淳市さんはもともと古い物が好きで、今出来の量産品に飽き足りない思いを抱いていたこともあったが、一番大きな力で背中を押したのは、初代松本佩山作のこの壺だったといふ。

佩山は“孤高”とも“反骨”とも称された生粋の有田生まれの陶芸家である。若い頃から独自に中国古陶磁を学び、個人作家として活躍、帝展に入選するなど抜きんでた存在だった。しかし、その制作姿勢が「伝統」の町・有田では異端視され、疎まれた。佩山は鹿島の酒造主人の招きに応じてその地で窯を開き、精力的に創作活動に励んだ。

そんな佩山を有田に呼び戻す

べく尽力したのが、町会議員で議長も務めた淳市さんの祖父とその弟の棕露地商店初代店主だった。稗古場に窯を築く便宜を图ったり、製品を窯ごと買取つたりしたのだといふ。

佩山は惜しくも帰郷後、三年も経たずに亡くなってしまったが、没後、遺族から棕露地家に届けられたのがこの壺だったのである。天井裏に隠し置かれていた作品とのことだった。佩山本人の恐らく快心の作で、売らずに手元に置いていたものと推測される。この壺を見るたびに「死後百年経ったら、自分の作品の真価が判る」と自負していた佩山の言葉を改めて噛みしめてい

る、と淳市さんは語った。

陶助おこし

おいしい有田を
いただきます



文＝筒井ガノコ堂
写真＝片岡亮



これまでの経験から、おこしは硬いという先入観があった。しかも、一個が比較的大きい。覚悟を決めて嚙んだら、予想に反して軽らかく、その食感が心地良い。口中で溶ける感じで、水飴の甘さと生姜の風味が優しく上品で、ついもう一個、となる――。

知る人ぞ知る有田名物「陶助おこし」の店は、泉山の国指定

天然記念物「大公孫樹」のすぐ近くに、人の目から隠れるようにして在った。ご主人は前田光則さん(59)である。

米からつくるおこしは中国にも朝鮮にも古くからあった。供え物として儀礼に用いられ、保存がきくので携帯食としても重宝されたようだ。物の本による

と「平安時代までに伝えられた唐菓子の一種、粂粋の後身」とあり、日本でも優に千年を超える歴史をもつ。

前田家がつくるようになったのは七、八十年前からだといふ。最初は雪竹藤助といふ人が有田陶器市の前身、品評会の期間中、遠來の客におこしをつくりて振舞つたところ評判が良く、名物として漸次定着していくとか。雪竹家には跡継ぎがなく、その

技法を前田さんの祖母はじめ数人が受け継ぎ製造するようになつたが、現在は一軒だけになり、前田家では祖母から父、そして光則さんで三代目になる。名称も「藤助おこし」から「白磁おこし」、三十年ほど前から陶都・有田に因んで「陶助おこし」となつた。

米を捣いて餅をつくり、その餅をあられにし、それを煎つて膨らませ、水飴と生姜をからませて形を整えて出来上がり。すべて手作業で、材料の配合と工程全部が門外不出の秘伝である。一日にできる量は三百～四百個。「大量生産はできないし、するつもりもない」と光則さんは言う。その「限定品」を、宣伝は全くせず、店頭での直売と注文による発送だけでさばいている。



有田焼が買えるお店

〈東京篇〉※50音順

有田焼が買えるお店

〈東京篇〉※50音順

今右衛門 東京店

十四代今泉今右衛門の作品及び色鍋島今右衛門技術保存会の作品を展示・販売する有田窯元の直営店舗です。

- 東京都港区南青山二丁目一十五
東京メトロ銀座線 青山一丁目駅より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線 青山一丁目駅より徒歩3分
- 都営大江戸線 青山一丁目駅より徒歩3分
- TEL 03-3401-3441
- 営業時間 9時～18時
- 定休日 日曜・祝祭日
- <http://www.imaemon.co.jp/>

柿右衛門 東京店

柿右衛門窯元直営の店舗です。

- 東京都港区赤坂六丁目一四
プリンセスピアビル2F
- 東京メトロ千代田線 乃木坂駅より徒歩10分
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅より徒歩10分
- 都営地下鉄大江戸線 六本木駅より徒歩10分
- TEL 03-3586-3841
- 営業時間／9時30分～18時
- 定休日／日曜・祝祭日
- <http://www.kakiemon.co.jp/>

香蘭社 東京銀座店

香蘭社ブランドの商品を販売。2Fギャラリーでは、テーブルウェア教室や絵付け教室、コンサートなどを随時開催しています。

- 東京都中央区銀座六丁目一〇
銀座香蘭社ビル1F
- 東京メトロ日比谷線 東銀座駅より徒歩3分
- TEL 03-3543-0951
- 営業時間／10時30分～18時30分
- 定休日／日曜・祝祭日
- <http://www.koransha.co.jp/>

源右衛門窯 東京店

源右衛門窯の商品の百貨店取引や販売を行っています。

- 東京都中央区八丁堀三丁目一
都営地下鉄浅草線 宝町駅より徒歩5分
- 東京メトロ銀座線 八丁堀駅より徒歩5分
- 東京メトロ銀座線 京橋駅より徒歩5分
- TEL 03-3551-0179
- 営業時間／10時～18時
- 定休日／土・日曜・祝祭日
- <http://www.gen-emon.co.jp/>

賞美堂本店 東京店

賞美堂本店オリジナルブランド“其泉”を中心に一般和食器から美術品まで取り扱っています。

- 東京都千代田区内幸町一丁目一
帝国ホテル本館 地下1F
- 東京メトロ千代田線 日比谷駅より徒歩2分
- TEL 03-3592-6455
- 営業時間／10時～19時(日曜・祝祭日10時～17時)
- 定休日／なし
- <http://www.shobido-honten.com/>

百田陶園 パレスホテル 東京店

遙か昔の記憶を引き継ぐように名づけられた1616AritaJapanは、有田焼の伝統を踏襲しながらこれまでの有田焼とは異なるデザインアプローチを試みています。これから未来に寄り添う、新しい器のシリーズです。

- 東京都千代田区丸の内一丁目一
大手町駅CL3b出口より地下通路直結
- TEL 03-6273-4765
- 営業時間／10時～19時
- 定休日／なし
- <http://1616arita.jp/>

深川製磁 「The House」

深川製磁のコンセプトSHOP。ゆっくり時間が流れれる隠れ家的な空間の中で、実際の「家」という場面でのライフスタイルを体現する事のできるSHOPです。オーダールームを併設しており自分らしさが見つかる特別な場と新たなサービスをご用意しております。

- 東京都港区六本木三丁目一
HOMAT WEST NO.120
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅より徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線 六本木駅より徒歩7分
- 東京メトロ南北線 六本木一丁目駅より徒歩5分
- TEL 03-3589-5520
- 営業時間／11時～19時
- 定休日／火曜日
- <http://www.fukagawa-seiji.co.jp/>

一般社団法人有田観光協会
(アリタノヒビキ)2号

取材協力
徳永明良様
吉島幹夫様
有田町文化財課／TEL.0955-43-2899
椋露地商店／TEL.0955-42-3216
前田陶助堂／TEL.0955-42-4411

発行元
一般社団法人 有田観光協会
住所／佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内 2-8-1
TEL.0955-43-2121 FAX.0955-43-2100
ありたさんば <http://www.arita.jp/>
E-mail kanko@arita.jp

企画制作・編集
アリタノヒビキ 制作委員会